

## CSV ファイルからのデータロード

OEM 画面から SQL\*Loader を起動して、ロード処理を行います

### 1. Data Pump によるエクスポートの実施方法

[データ移動] タブ → 行データの移動・セクションの「ユーザー・ファイルからのデータのロード」

「データのロード：制御ファイルの生成または既存の制御ファイルの使用」画面

● 制御ファイルの自動生成 をチェックし

ホスト資格証明欄に、OS 側のユーザー名とパスワードを入力する

をクリック

ステップ 1/7 「データのロード：データファイル」画面

データファイルのサーバー（サーバー・マシン上 or ブラウザ・マシン）とファイル・パスを指定します

をクリック

ステップ 2/7 「データのロード：表およびファイルの形式」画面

表名（スキーマ名、表名）を指定します

をクリック

ステップ 3/7 「データのロード：ファイル形式属性」画面

フィールド・デリミタ（、カンマ）、スキップする行数（1 行目が列名などの場合）、フィールド囲み（“ダブルクォーテーション）を指定します

をクリック

ステップ 4/7 「データのロード：ロード・メソッド」画面

ロードする方法を選択します（従来型パス or ダイレクト・パス or パラレル・ダイレクト・パス）

従来型以外は、参照整合性などの制約やインサート時のトリガー起動が働きません

をクリック

ステップ 5/7 「データのロード：オプション」画面

ロードする行数の制限、最初の行のスキップ、エラーの場合のジョブ中止命令などが指定できます

をクリック

ステップ 6/7 「データのロード：スケジュール」画面

このジョブをスケジュールするために、ジョブ名と開始日時を入力します

をクリック

ステップ 7/7 「データのロード：レビュー」画面

エクスポートで設定を行った内容が表示されます

をクリック

「処理中」画面が表示されます

しばらくすると、「確認」画面が表示されメッセージが確認出来ます

「ジョブの名前」をクリックするとジョブが開いて、データのロードについての結果内容が表示できます